

— 住学協同への実験 —

筑豊ゼミ研究会報 新年号

NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター・筑豊ゼミ研究会報第 18 号 2015 年 1 月 10 日

1 月例会は 1 月 21 日(水)午後 7 時～9 時

【ひきこもり研究会：場所：飯塚中央公民館 2 階学習室（市立図書館 2 階）】
受付(独楽研究会)は視聴覚教室(4 号館 1 階)で行います。インフォメーション(連絡事項)等を、最初に行いますので、受付後午後 7 時迄視聴覚教室に待機してください。

市民遺産研究会(4号館4階、4103 教室)

- 1) 飯塚歴史探索ルートの再確認
- 2) グーグルマップ(マイマップ)の写真記事を再確認
- 3) マイマップへの登録数の確認

独楽研究会(4号館1階、4401 視聴覚教室)

- 1) ギネスの登録について
- 2) ガラスの違いのタイム差について
- 3) 独楽の歳差運動について

ひきこもり研究会

日時:1 月 21 日(水) 午後 7 時より 8 時 30 分、

場所:飯塚中央公民館 2 階学習室(市立図書館 2 階)

- 1) 自宅訪問から自死までの 8 年あまりの寄り添いについて(会長 野田が関わった若者の解説 京都で出会い社会参加を目指して飯塚にきましたが…)
- 2) 飯塚市の若者のおかれている状況解説(年齢別人口から予測できること)

情報発信/データデザイン研究会(午後 5 時 3 号館 3 階 3304-B:情報工房)

- ・筑豊ゼミ Web サイトへの意見の収集・分析。
- ・筑豊ゼミ Web サイトの各研究会紹介ページの充実。

(他の研究会員でも、前日までに pdd 研 chikuzemi.pdd@gmail.com宛に了解をとって頂ければ、参加できます。)

筑豊ゼミ・研究会報告

市民遺産研究会 12月定例研究会

顧問 菊川 清

白神会長が体調不良で欠席のため、永昌会での活動発表と28期について、話し合った。

①永昌会での活動発表会は、商店街との話し合いなど早くから準備をしないと、路上での展示などができないため、今後の課題が大きいことがわかった。

②28期については、全員が参加したくなる例会とするために、筑豊遺産の見学を中心に据えてはどうかとの意見が出た。これも今後の課題である。



永昌会(旧近大亭)

独楽研究会 12月定例研究会

会長 笹原 泰史

商店街での発表会についての課題を話し合う。

人の通りが少なく、独楽を回していることを知らせる

パネルがあったらよかったのと学生さんの応援が助かりました



- ・ギネス登録について、大名独楽はカウンセラーを付けて準備したらどうか？
- ・世界一大きい独楽と小さい独楽はゼミで行ったらどうか？
- ・ガラス板によるタイム差は独楽資料館で強化ガラスと並ガラスでテストを行う。
- ・28期についての話

ひきこもり研究会 12月定例研究会

会長 野田 隆喜

12月11日 午後7時～8時30分 開催 会場 市民交流プラザ 参加者4名
内容

1. 30才すぎた ひきこもりについて

二つの流れがあります

- 1) 不登校からそのままひきこもり生活となり、気がつけば30才をすぎている
- 2) 主に22才前後で「働いて」挫折してしまい、ひきこもりとなる

* 近年は20才が急増中 1) 2) とも 社会参加への道筋が大切

ただし「就労」への案内とはなりにくく「孤立」を防ぐための社会参加です

→ すでに 若者も親も「生きていくために働かなければならない」の世代ではなく
「自分を認めてもらうために働く」世代になりつつあります

2. 社会資源の活用について

* ひきこもりの若者（上は50才を超えますが・・・）を社会参加、そして就労への案内は現在ある様々な「ひと・もの」を改良して対応すれば可能ではありますが、それは関わる関係者や一般の方からみれば大変なストレスと忍耐が肝要を必要とします。会長野田も未だ暗中模索です。一緒に苦勞するしかないとしかいいえません

以上 1. 2. を 現在34才 男性 22才より約10年間関わった若者との日々を紹介しながら解説

情報発信/データデザイン研究会(pdd研) 12月定例研究会

「筑豊ゼミ:情報発信/データデザイン研究会」 - 2014年および今後の活動について -

アドバイザー: 戒田 高康(近畿大学産業理工学部情報学科)

第27期筑豊ゼミ(2014年度)から新たに発足した「情報発信/データデザイン研究会」に関する2014年中の活動について簡単に振り返ると共に今後の活動における方向性について、アドバイザーの立場から個人的な希望も含めて述べさせていただきます。

1. 学生主体の研究会

筑豊ゼミが、2012年度に25周年を迎え、2013年度から新たにNPO法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター(以下、地域づくりセンター)との関係にある意味で明確化し、近畿大学産業理工学部やその教職員との関係をより親密に/より発展的に活動を強化する必要性が議論され、そのひとつの具体策として「学生主体の研究会」の発足が模索された。2013年度は「経営ビジネス研究会(近大亭)」と「ピオープ研究会」の2研究会が発足した。翌年2年目の2014年度は、経営ビジネス研究会は休会したがピオープ研究会に加えて、「情報発信/データデザイン研究会」

(以下、pdd 研※)が新たに発足した。

pdd 研は、学生主体の研究会であると同時に、筑豊ゼミおよび地域づくりセンターの広報、特にホームページ(HP)の作成と管理・運営を担うことも期待された。実際は、筑豊ゼミと地域づくりセンターとも既にHPは公開しており、広く閲覧できる状態ではあったが、そのデザイン・内容・更新のやり方や頻度などの多くの点に関して検討や改善の余地があることは認識されていた。

筑豊ゼミにおいて、学生主体の研究会を実りありかつ継続的に続く研究会にするためには工夫が必要である。すぐに考えられることは、次の3通りおよびそのミックス型である。(1)課外活動型(2)演習や実習等の科目型(3)研究室や研究テーマによる研究型である。pdd 研に関しては、当初は課外活動型を模索したが、結局は科目型(と少し研究型)により学生を募った。具体的には、2013年度にプロジェクト型の科目で戒田研のメンバーであった(2014年度)4年生に声を掛けて2名(神足佳大初代会長と中村真沙人初代会計長)の学生に参加をしてもらった。その後、2014年度の同プロジェクト型の科目で戒田研のメンバー(丸林恵現会長)とその他の研究室のメンバー3年生4名と担当の演習科目中で誘った2年生2名の6名が5月から7月に加わり合計8名とアドバイザーで研究会が構成された。予想はされたことではあったが、科目(ある意味で単位)に基づいて、その時間的/労力的な負担をそれ以上に強いる研究会への勧誘に関する難しさを痛感した。また、学生の勧誘と構成に当たっては、筑豊ゼミにおける年度ごとのスケジュールと大学における科目や研究室等のスケジュールとのずれが運用上で工夫が必要であるように思われる。

2. 2014年における活動

学生主体の研究会は、筑豊ゼミの活性化に加えて、その参加学生に対する教育効果も期待できるし、その効果が(即応性はさておき)感じられないといけないと考えられた。一方で兎に角、pdd 研における最大のミッションは筑豊ゼミおよび地域づくりセンターHPのリニューアルである。そのため、地域づくりセンターから幾ばくかの予算を付けて頂いた。それに加えて、飯塚市が学生を対象に募集している「チャレンジプロジェクト2014」への応募による予算の獲得とその対外的な活動による教育効果を期待した。

残念ながら、戒田研3年生とpdd 研メンバーが一致しなかったため、チャレンジプロジェクトへの応募は別のチームを結成して応募することにより二重構造となったが、その内容と役割の多くは関連性のある課題となった。しかし、学外での公聴会やその他の関連イベントにpdd 研のメンバーやその他の学生が参加することは非常に重要で、学生にとっても有意義であると確信した。

また当初、pdd 研は学生主体の研究会であっても広く一般の他大学の学生や社会人もその構成員として受け入れる方針を示していた。しかし、実際は本学科および学生以外での研究会員は居なかった。それは、広報/募集活動やその作業の量やスケジュールから毎週水曜日の活動が必要だったからだと推察される。一方、毎回全員が参加とはいかないまでも、毎週の活動が定着したことは評価できるし、その点は丸林会長をはじめほぼ皆勤の2年生2名に本当に感謝している。

3. HP のリニューアルと管理・運営について

当初の予定を約2か月遅れではあるが、この年末から年始にかけて、筑豊ゼミHPおよび地域づくりセンターHPがそれぞれリニューアルして公開される。また、HPのデザイン作成に当たっては、本学部の美術部に多大なご協力を頂いたようで、この場を借りて、感謝の意を表明したい。

筑豊ゼミ <http://www.chikuzemi.com/>

地域づくりセンター <http://www.chikuhou-jugaku.org/>

しかし、その内容には不足な点や不完全な点が多々ある。是非、一度、上記のHPを閲覧して、下の連絡先へご意見やご要望を頂きたい。一方、その技術的/時間的な制約で全てに応えることは困難かもしれない。それらの洗い出しや説明の繰り返しは、まさに本pdd研のひとつの研究テーマである。

4. 今後の活動とやるべきこと

当然、筑豊ゼミHPおよび地域づくりセンターHPの改善、というよりは完成に向けたチューニング作業を残された3か月で行う必要がある。pdd研の反省点としては、作業に追われて、広く筑豊ゼミおよび地域づくりセンター関係各位からの意見聴取が出来なかったこと、一部の意見に対する対応やその説明が不十分であったことである。その点は、今後の管理・運営の段階で弛まぬ改善と更新を継続していくべきだと思われる。

現在の第27期筑豊ゼミpdd研のメンバーは、本学部情報学科の学生のみである。可能であるならば、pdd研は来年(2015年)度以降も継続的に活動を行いたい。当然、簡単なことではないが、その他の学科学生および他大学の学生や社会人も研究会員として参加可能な研究会への工夫の模索が必要である。また、HPの作成は情報発信のひとつの手段でしかない。本来のpdd研の目標は、その方法論の研究と実践になると考えている。直ぐには出来ないが、それらの方向に向けて少しずつでも努力を積み重ねたいと考える。そのためには、筑豊ゼミおよび地域づくりセンターのみならず、近畿大学産業理工学部およびその他のご協力が欠かせない。

※Publicity and Data Design 研究会の略称

pdd研のホームページ <http://www.chikuzemi.com/pdd/>

pdd研役員への連絡先 chikuzemi.pdd@gmail.com

発行：NPO法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター 第27期筑豊ゼミ

責任者：第27期筑豊ゼミ運営委員長 菊川 清

編集者：第27期筑豊ゼミ運営委員会事務局長 主税 洋三

住所：〒820-8555 飯塚市柏の森11-6 近畿大学産業理工学部気付 第27期筑豊ゼミ

連絡先：090-9485-5985（運営委員長 菊川）090-8624-2886（事務局長 主税）

e-mail：chair@chikuzemi.com（運営委員長） sec@chikuzemi.com（事務局長）